

令和8年度 第1回 砺波市総合計画審議会 議事録（概要）

【日時】 令和8年6月30日（火） 13時30分～15時

【会場】 砺波市役所 3階 大ホール



1 開会・市長挨拶

砺波市は合併から20年を経過し、第2次総合計画が10年目の区切りを迎えます。令和9年度から新たに第3次総合計画を策定する。10年間の計画期間において、コロナ禍や中東情勢など予測困難な変化が生じることは避けられない。しかし、市としての基本的な考え方がぶれなければ、変化に対応した方法論を柔軟に展開できるものとする。本審議会では、第2次計画のKPI進捗状況やアンケート結果、前回の審議を踏まえた基本構想素案をお示しいたします。今後10年の砺波市の未来を見据え、皆様からの貴重なご意見を願いたい。

2 会長挨拶

砺波市は2004年の合併以来、人口増加期を経験してきたが、現在は人口減少期という新たな課題に直面している。様々な予測困難な課題が生じる中、自治体が対症療法的に対応するだけでは十分ではない。限られた時間と体力の中では、課題に対してどのような方向で向き合うかという方向性を定めることが重要である。総合計画は、砺波市の将来像を左右する重要な指針であり、明確な方向性があれば、様々な課題への対応が可能になる。本審議会では、第2次計画のKPI進捗状況を確認するとともに、第3次総合計画の基本構想について、専門的な見地から慎重かつ大胆なご議論をお願いしたい。

3 協議事項

(1) 第2次後期計画におけるKPI（数値目標）の進捗状況について

◆事務局説明

資料1のとおり

(2) 第3次総合計画 基本構想素案について

◆事務局説明

資料2-1・2-2のとおり

◆ご意見・質疑応答

○委員：人口移動対策や子育て支援、出会いの機会創出に取り組んでほしい。人口減少下での集合住宅申請と空き家増加の矛盾を解決するため、空き家と住宅需要のマッチングを進めてほしい。

新規就農者について、従業員と自営農業者を区別することで、農地や生産がより効果的に進められると考える。

○委員：将来人口の目標値を設定する予定はあるか。国が目標値を掲げていないため、また価値観の押し付けを避けるため、現在は県においては目標値を設定していない。ちょうどよい「緩やかなつながり」の重要性を踏まえると、基本構想の「連携、支え合い、つながり」といったキーワードは非常に良い。

●事務局：目標値は設定せず、複数の推計を見通しという形で示す方針である。

○委員：基本方針4の「地域の強み」が具体的に何を指しているのか知りたい。また「商店街活性化」より「中心市街地活性化」という表現の方が実態に合っているのではないか。

●事務局：「地域の強み」はブランド、特産品、地域資源などを指す。「商店街活性化」の表現は個別施策作成時に検討する。

○委員：将来像のフレーズが良い。基本方針5に関連して、性別役割分担意識を払拭し、誰もが住みやすい砺波市を目指して活動している。学んだことを身近な人に伝え共有することで、砺波市がより住みよい街になるよう前進していきたい。

○委員：避難行動要支援者登録率が年々低下していることを危惧している。複数名でなくても申請できることを周知することで登録率向上につながる。登録して安心ではなく、登録情報を地区や自治会で共有することで、災害時の犠牲を防ぐことができる。

○委員：将来像は短くて覚えやすく良い。福祉現場では孤立して相談に行けない人が存在

する。強い関係は負担になり、弱い関係では見守りができないため、ほどよい関係が必要である。福祉教育も大切であり、子どもの頃から福祉とは何か、人とどう関わるかを学校で学ぶ必要がある。

○委員：孤立する高齢者に対し訪問支援活動を行っている。高齢者で構成された団体だからこそ、同じ環境と経験を持つ高齢者同士で相談できることがある。民生委員とも連携し、今後もこの取り組みを続けていきたい。

○委員：ホテル・旅館宿泊者数が増加しているが、インバウンドの割合と近隣市町村との比較を教えてほしい。また、商工業・観光の振興の市民満足度が他施策と比べて低い点について、詳細を把握する予定はあるか。

●事務局：インバウンドの割合及び近隣市町村の数値は把握できていない。

市民満足度については実施済のアンケート結果に基づいており、改めてのアンケート実施予定はない。

○委員：将来像の「未来もずっと」が良い。労働者として最大の関心は企業の存続と継続就業である。砺波市は人手不足が現実であり、経営者・労働者双方が情報をアップデートしなければ置いていかれてしまう。継続的な企業成長を促す施策の充実を要望する。

○委員：中学校の部活動から地域クラブ活動への移行で指導者確保が困難である。砺波市民はスポーツを楽しんでいると思うが、市内体育館は市外利用者が多いという現状がある。市民がより使いやすくするための検討が必要だ。

空き家対策について、地元や不動産業者との情報共有と柔軟な対応を希望する。

○委員：基本方針５に関連して、自動運転を取り入れたまちづくりは、産業振興やDXと関連して検討する価値がある。「考えてみる」という姿勢が必要であり、新しい取組は魅力あるまちの実現につながる。

○委員：観光の振興について、例えば「となみ夜高祭」は、一地区の祭りではあるが、市の重要なイベントでもあるので、認知度向上等に行政からも支援をいただきたい。商店街の活性化については、隣接する複数の町内に、同じ議論のテーブルについてもらう努力をしている。

○委員：砺波市民は真面目で優しい気質であり、基本構想も内向きの視点が多いと感じる。人口減少を考えるための外向きの視点の方針があってもよいのではないか。

●事務局：人口減少は避けられない課題であり、緩和と対応の両輪で対策を考える必要がある。人口減少対策は５つの基本方針全てに関わり、重点施策「10WAVE」の中で具体的に示していきたい。

5 会長発言

協議事項（１）について、令和７年度の実績を含め概ね内容は理解された。委員からは、いくつかご意見をいただいたが、それに対し市で具体的に取り組める部分もあると考える。今後の基本計画作成の際に検討されたい。

協議事項（２）について、第３次砺波市総合計画の基本構想については、今回示した素案の内容で「概ね良い」という評価を得た。基本的にはこのまま進めるが、本日いただいたご意見を踏まえて部分的に調整する。委員の皆様の関心が高い、より具体的な取り組みについては、この後の基本計画策定の際によく検討していただきたい。

6 閉会・市長発言

個別施策については、今後の議論の中でいただいたご意見やアンケートなどを含めて、より具体的にしていきたいと考えている。

人口ビジョンについては、前回より厳しい見通しとなった。人口減少は日本全体で避けて通れない課題であり、減らさない取り組みだけでなく、減ることを前提とした取り組みの両方が必要である。ご意見でも出た、自動運転といった新技術がその鍵となるのではないかと考えている。

「つながり」の話題が出たが、私としても素晴らしい砺波市の強みだと感じている。一方で、自治振興会や町内会といった地域コミュニティが負担と感じられる方もいらっしゃる。なんでも新しくすれば良いというものではないが、例えば男女共同参画の観点などから、見直すべき部分もあるだろうと思う。「つながり」で言えば、福祉についても、一人の人に複数の視点からの見守りと相談しやすさが必要であり、それは地域コミュニティが健全であることが前提となるものである。

商工業・観光について、地元の観光地やイベントに対しては、そこに住んでいる方からすると評価が難しい部分があると思う。祭りについても話題が出たが、行政が主導するのではなく、地元の方が主体的に運営することが継続の鍵となる。

砺波市は、住みたいまちだとなかなか名前が挙がらないが、中心市街地の便利さなどで実際に住んでいる人からの評価は高い。この良さに胡座をかかず、引き続きまちづくりに取り組んでいきたい。

砺波の「つながり」という強みは、将来像「ときめき なごやか みらいもずっと」の「なごやか」という部分に表現されている。人柄や気質といった砺波市の良さを大切にしながら、基本的な考え方を重視した柔軟な総合計画、まちづくりを進めていきたい。